

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース第4回情報交換会 実施報告

2023年2月21日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る1月28日(土)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第4回情報交換会を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2022年度SDGs スタートアップ研究分科会活動状況概要
2. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
 - b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム）
 - c. 有限会社ウイルパワー（循環ビジネスの社会的役割の実施）
 - d. 高野山真言宗[大師教会] 和歌山教区＜三密教会＞（生活の継続が保証される町づくり）
 - e. 株式会社インフォテック・サーブ（iCD活用でSDGsを達成）
 - f. ブルージュオブズ株式会社（SDGs×広報応援プロジェクト）
3. 3月のセミナーに関して
4. フリーディスカッション

各項目の概要をお伝えします。

1. 2022年度SDGs スタートアップ研究分科会活動状況概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019年10月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続きSDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っているSDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しています。

去る12月16日(土)、SDGs スタートアップ研究分科会の2022年度SDGs スタートアップ研究分科会-ベーシックコース第2回目（ロジックモデル進化版）を開催しましたのでご報告いたし

ます。2022 年度の新規参加団体：15 団体、継続参加団体：4 団体で、アウトカムだけでなくアウトプットの発展もマネジメントするロジックモデル進化版を使用して説明および演習を行いました。

詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.pmi-japan.org/sdgs/2022/12/29/post-118/>

SDGs スタートアップ研究分科会の Facebook（前回報告）、Note（Blog）、Youtube を開設しました。是非、ご参加ください。

Facebook:

[PMI 日本支部 SDGs スタートアップ研究分科会 | Facebook](#)

Note(Blog):

https://note.com/sdgsstartup_pmi/

Youtube:

https://www.youtube.com/@SdgsStartup_pmi

アドバンスコースの開催

本年度のアドバンスコースは、原則として 2019 年度、2020 年度、2021 年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDG プロジェクトを対象としていますが、すでに SDGs 事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

図 1 にアドバンスコースの位置づけ、スケジュールを示します。

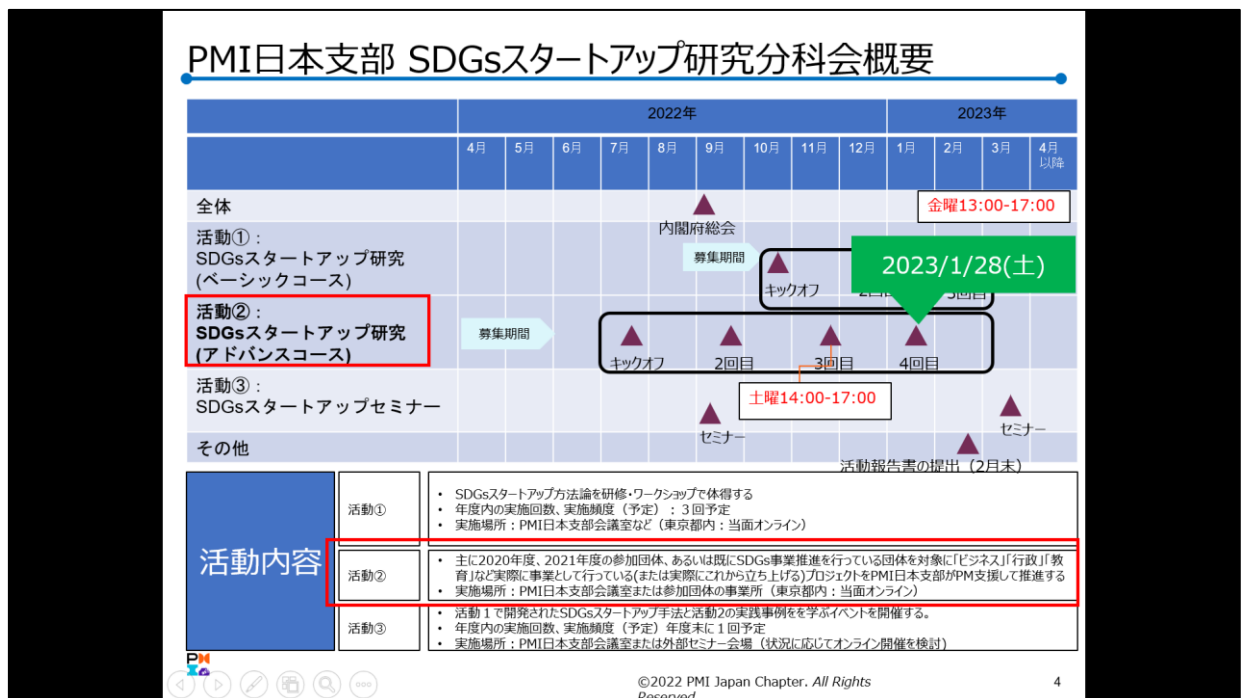


図1 アドバンスコースのスケジュール、活動内容

2 アドバンスコース参加団体の情報交換

現在アドバンスコースに参加されているのは6団体です。

6団体に SDGs 取組み状況をご報告いただきました。

a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）

（報告：舞鶴工業高等専門学校 校長 内海康雄氏）

- ・小規模河川の水位監視システムプロジェクトにおいては WBS の更新版を基に、洪水予測システムの運用で、舞鶴市の総合モニタリング情報配信システムでの志楽川のカメラ映像と水位データの事例の紹介、舞鶴市と舞鶴高専の学生（防災士）が共同して防災士の育成を行ってきた。
- ・小規模河川プロジェクトにおいて、2019 年度から SDGs スタートアップ手法を適用してきたが、2020 年 5 月に更新したロジックモデルに対して、現時点における進捗状況と成果を基にして評価を試みた。短期アウトカムを 1 年後(2021 年 3 月まで)、中期アウトカムを 3 年後（2023 年 3 月まで）として、計画時点（2020 年 5 月）のロジックモデルに対してのそれぞれの成果がわかるように併記した。

3つの活動テーマ：A.洪水予測システムの構築・運用、B.防災情報の発信と体制(組織・制度)の整備、C.防災人材の育成に対して、短期アウトカム、中期アウトカムがほぼ達成できたこ

とが分かるかと思う。

ベネフィットリストの評価においては、計画時点（2020年5月）のベネフィットリストに対して2023年1月時点でのそれぞれの成果がわかるように併記した。

3つの活動テーマ：A.洪水予測システムの構築・運用、B.防災情報の発信と体制（組織・制度）の整備、C.防災人材の育成に対して、それぞれのベネフィットリストの2023年1月時点での評価を行ったが、舞鶴市近辺ではここ数年、大雨、洪水の実例がなく、洪水予測システムの改善や評価できる項目が十分でないが、C.防災人材の育成では、市民の防災士：令和4年から計45名、2日間講習、高専生の防災士：平成27年から計281名、1コースで15回講習、小中学生向け防災講座数：JSTジュニアドクター育成塾で実施約40名/年 参加など具体的成果が挙げられた。

- ・市民向け防災講座への一般市民参加者：50名のアンケート結果では、講座の内容に関して、満足（100%）、また、これまで防災活動に参加していなかったが、95%が今後は地域の防災活動に参加したいと回答されていた。
- ・小中学生向け防災講座への参加者：32名のアンケート結果では、講座の内容に関して、理解できた（100%）、また、楽しかった（94%）と回答されていた。

b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を活用した地域課題プラットフォーム[river]）

（報告：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏）

[river（リバー）]という名称で、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度利用のためのコーディネートを得られるサービス」を提供しています。

- ・官民連携事例として山形県西川町の地域課題：町の関係人口作り・就業人口増加に対して、管工事関連の仕事創出・担い手創出、町外の方（従業員等）と町民の交流創出を行うための企業版ふるさと納税を活用したプロジェクトの紹介がありました。
 - ① 現地建設事業者の育成、②独立型トイレの実証事業、③従業員・その家族の自然体験を進めるために東京の企業（ローヤルエンジニアリング）が寄付をきっかけと西川市と現地企業と連携してプログラム推進を行っています。
- ・内閣府・経産省イベントで、内閣府、8府県庁共催で過去最大規模の企業と自治会のマッチング会を2月9日、14日、15日に実施する予定です。

<https://cpriver.jp/column/5827/>

- ・奈良県の知事・副知事・全首長が集まるサミットがあり企業版ふるさと納税について講演。
- ・経済産業省の事例集：事例集発刊、企画・執筆・監修にかかわれました。

https://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/chiiki_kigyoushi_kyousei/point.html

c. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

(有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏)

(報告：有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川健次郎氏)

- ・サーキュラー・ベースの構築として、地方行政との連携、リユース・リサイクル優先するところで、行政と連携したい。
- ・倉敷市から、一時多量ごみ収集運搬の認定可能 1月10日より協議開始し、2月14日より申請受付の予定です。
- ・倉敷市のSDGs施策：廃品寄付による国際協力 - 広報活動を推進中です。
- ・倉敷市の環境イベント：くらしき環境フェスティバル(2023夏)に参加の予定です。
- ・フィリピン バギオへの出店を計画中で、1月10日～16日に現地を視察しました。
- ・ロジックモデルを再度検討中で、改訂していく予定です。

d. 高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会>

(報告：高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会> 浅田慈照氏)

- ・2022年度<三密教会>プロジェクトとして

「生活の継続が保証される町づくり」をテーマに一年限定プロジェクトとして、防災と地域交流による地域再生小さなプロジェクトを推進してきた。

- ・柿の木坂地区は、山を切ってそこに住宅を1985年に開発した開発型のニュータウンで、盛り土ではなく切土で建設された地域で岩盤は固く地震には強い。
令和4年3月時点：約400戸、人口：1044人、高齢化が進み、75才以上高齢者数：421人、高齢化率：40.3%であり、岩盤が固いこともあり、災害対策として、避難所へ行くのではなく、在宅で避難するという事で、赤いタオルと青いタオルと「在宅避難 安否確認方法マニュアル」<三つ折りのリーフレット>を400戸全戸に配布して在宅避難 安否確認を行うことを提案した。赤いタオルはSOS支援要請、青いタオルは小難・無事、タオルが出ていない場合は、危険と判断しすぐに踏み込むことを意味している。
- ・NHK和歌山放送局の取材を受け、12月21日に NHK ギュギュッと和歌山放送局の地方版で、女性区長は中心になり推進され防災プロジェクトとして、浅田さんを中心にインタビューと活動内容が放映された。
- ・2023年度は、「誰一人 取り残さない!【leave no one behind!】」をコアに進めていきたい。

e. 株式会社インフォテック・サーブ （代表：橋爪修氏）

（報告：株式会社インフォテック・サーブ 志村氏）

テーマは：iCD 活用で SDGs を達成 主要なゴール 8: 働きがいも経済成長も

- ・共感マップの作成が完了。当初のターゲットユーザーのペルソナを 60-65 歳・IT エンジニアと高齢者社員の多い企業経営者の 2 つに分けていたが、賃金に不満のある社員と賃金に不満のある社員をもつ経営者になっていった。

As-Is シナリオの共有として経営者が持つ Pain/Gain を確認し、IBM のデザイン・シンキング手法を使用し、投票を行い以下の 3 つの課題に絞り込んだ。

- a. 採用候補者を含め社員の客観的な評価が困難である
- b. ワクワクする仕事を創出できる環境を作りたい
- c. 社員の育成を行っても、成長すると転職してしまう

- ・更に 3 つの課題の中から Gain となる「b. ワクワクする仕事を創出できる環境を作りたい」に集中して討議することとした。この Gain を実現するため『ワクワク』という状態を具体化し、Gain 実現のためのビジョンと課題カテゴリーを定義した。

ビジョン：『社員が生き生きと仕事に取り組むことで、個人の成長を通して会社を成長させたい』

課題カテゴリー：

- A) 制度と仕組み（環境・評価）
- B) マインド（雰囲気）
- C) 実行力（仕事の内容）

A)～C)の課題カテゴリーを更に五つに分類した。課題は広範に渡るためまずは最優先課題の特定を行うこととした。

最優先課題として意見が一致したのは A) 制度と仕組み（環境・評価）の中の「組織文化」であった。但し、あくまで仮説であり、最優先課題として適切かどうか検証を行う必要がある。評価は組織の WellBeing と個人の WellBeing の 2 軸で評価することとした。

この 2 軸の指標として『可処分時間』のポートフォリオ～非営利コミュニティの『人が来ない問題』とエンゲージメントについて～から「エンゲージメントの壁」と慶應義塾大学大学院教授・前野隆司「幸せの因子」を活用する事とした。これらによって、仮説の適切性を証明し、最重要課題とすることが次年度以降の取り組みとなる。

f. ブルージョブズ株式会社 （代表：橋本滋氏）

（報告：ブルージョブズ株式会社 専務取締役 橋本滋氏）

- ・SDGs 広報応援プロジェクトの概要として SDGs に取り組む中小企業の広報応援隊を目指すサステナビリティライティング事業を推進する。

- ・HPやSDGs宣言、SDGsレポート等の文章制作をサポートするサービス。その結果企業の業績アップや採用の成功等につながることを狙い。
- ・リーンキャンバスを基に、顧客セグメント、課題、独自の価値提案、ソリューション、コスト構造、収益の流れ、チャネル、主要指標、圧倒的な優位性に関して説明。サステナビリティ関連の知識、情報アウトプットの経験があるライターが講師であり、読者目線、プロとしてアウトプットした経験を元に、サステナビリティ情報発信をサポートすることができる。ブルジョブズ事業の競争優位性と考えている。
- ・プロジェクトとしては初心者向け・ライティング基礎が学べる e-learning を販売。実際の報告書プロライター向け。 添削付きの講座、報告書等の取材原稿サポートを行う予定。サステナブル情報発信ならブルジョブズと言われたい。次年度に向けてコンサルティングの事業比率が高まりつつある。SDGsを軸に中小企業のブランディングに役立つ伴走支援ができればと思う。

3 フリーディスカッション

今年度の活動を通してのコメント、感想やPMIの支援などに関して意見交換を行いました。デザイン思考などいろいろな手法の紹介、それらを活用した課題の分析や各団体のテーマに対するPMI日本支部 アドバンスコース支援チームのサポートが有益であったなど、参加団体から示唆に富んだディスカッションをおこないました。 いろいろな話題や意見が出て有益な時間でした。

本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問合せください。

PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)